

「市立幼稚園・保育所のあり方について」に関する説明会議事録

日 時	平成29年2月28日(火) 18:00~19:15								
場 所	岩園保育所								
出 席 者	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">こども・健康部長</td> <td style="width: 40%;">三井 幸裕</td> </tr> <tr> <td>教育委員会管理部長</td> <td>岸田 太</td> </tr> <tr> <td>こども・健康部子育て推進課長</td> <td>伊藤 浩一</td> </tr> <tr> <td>こども・健康部主幹新制度推進担当</td> <td>和泉 みどり</td> </tr> </table>	こども・健康部長	三井 幸裕	教育委員会管理部長	岸田 太	こども・健康部子育て推進課長	伊藤 浩一	こども・健康部主幹新制度推進担当	和泉 みどり
こども・健康部長	三井 幸裕								
教育委員会管理部長	岸田 太								
こども・健康部子育て推進課長	伊藤 浩一								
こども・健康部主幹新制度推進担当	和泉 みどり								
事 務 局	こども・健康部子育て推進課								
参 加 者 数	12人								

1 次第

- (1) 開会
- (2) 説明
- (3) 質疑応答
- (4) 閉会

2 配布資料

当日配布資料

3 議事録

(事務局伊藤) 質疑応答で時間を取り詳しく説明したいと思います。

資料1をご覧ください。本日は岩園保育所ですので、保育所を中心に説明します。保育所は6か所から2か所になります。

岩園保育所は変わらず岩園保育所としてそのままです。

精道保育所は精道幼稚園と統合しまして、平成33年4月に開園を目指して、幼保連携型認定こども園として定員150人から200人程度を計画しています。

打出保育所、大東保育所は私立の認可保育所への民間移管を計画しています。期日は打出保育所が平成31年4月、大東保育所が平成34年4月となっています。

新浜保育所は宮川幼稚園、伊勢幼稚園と統合して平成33年4月の開園を目指して、(仮称)西蔵認定こども園ということで、西蔵町の市営住宅跡地に250人から300人程度の幼保連携型認定こども園を計画しています。

緑保育所は変わらずそのままという内容です。

市全域で待機児童が平成29年2月1日時点で357人でした、4月の

待機児童の見込みが155人です。この計画を予定どおりできましたら、保育部分の定員の増加が374人となりますので、総枠として今待機している人数を上回る計画になっています。

資料2をご覧ください。こちらは全体の枠組みを示した行程表です。全ての説明は省略しますが、市立認定こども園精道保育所、精道幼稚園となっている部分ですが、精道保育所と幼稚園を統合して認定こども園とする計画です。精道保育所で認定こども園をするのか、精道幼稚園でするのかまだ未決定です。こちらで明記しているのは精道保育所で認定こども園をする場合どのような予定になるのか示しています。あくまで一例としてご覧ください。

すでに何回か説明会を開いた中で、何故このような計画になったのか、ということをごくども質問をいただきますので、その部分に触れさせていただいて、質疑応答の時間にしたいと思います。

何故このような計画になったかと言うことですが、平成27年から子育て未来応援プラン「あしや」を策定いたしまして、それに基づき事業を進めています。

この子育て未来応援プラン「あしや」の策定にあたりまして、平成25年に一般の市民アンケートを取り、平成26年度に学識や保護者の方などで構成された委員会の中で子育て未来応援プラン「あしや」を作っていました。内容は様々ですが、幼稚園と保育所の方向性を検討する必要があると書いています。

また、平成28年度施政方針で「幼稚園・保育所の適正な規模について検討していきます。」ということに記載しています。この子育て未来応援プラン「あしや」の中で待機児童の問題や3歳から教育を利用したいニーズに対しては認定こども園の整備で対応していきたいということがあり、南芦屋浜や旧市立浜風幼稚園敷地での民間誘致を実施していました。

子育て未来応援プラン「あしや」が進んで2年が経とうとしていますが、2月時点で待機児童が357人おり、3歳からの教育ニーズに対する定員の確保も十分ではありません。公立幼稚園の利用者が低下しているということもあります。そのような課題が依然としてある中で市としていかに今後将来に渡って教育・保育の水準を維持し、向上するのか、公立施設を効率的に今後も継続性を持って維持できるのかも踏まえながら検討した結果、資料1のような結論が課題を解決できるのではないかと考え、公表しました。

只今から質疑応答に入りまして、不明点がありましたら質問を頂戴したいと思います。

(保 護 者) 市立幼稚園が定員を充足していないこともあり、統廃合があると思いますが、市立幼稚園が定員を充足しないのは2年保育しかないからだと思えます。3年保育をすれば定員を充足できるだろうし、統廃合に至らなくてもいいのではないかと思います。岩園幼稚園についてはそもそも今建ったばかりです。認定こども園として建てていれば施設を改修することなく、そのまま認定こども園として利用した上で待機児童の解消も図れたと思えます。

岩園幼稚園と朝日ヶ丘幼稚園を統合しても結局充足率は50%しか満たないです。そもそも計画的に岩園幼稚園を認定こども園として建てていけば待機児童の解消に努めることができたのではないかと思います。

廃止される予定の幼稚園も設備的に認定こども園にすると足りないところもあるかもしれませんが、新しい施設を建てなくても、既存の施設を改修するなり、利用できるのではないかと思います。それについて考えをお伺いします。

(事務局伊藤) 朝日ヶ丘幼稚園の跡地を認定こども園として利用してはどうかということですが、宮川幼稚園や伊勢幼稚園、新浜保育所については有効活用していく必要があると思えます。

(保 護 者) 跡地としてではなく、既存施設を認定こども園として利用するには足りないところもあるかとは思いますが、改修をして利用するべきではないですか。新設するぐらいであれば改修して使えるところは使った方がいいのではないですか。

(事務局伊藤) 確かに、施設については新設するより改修の方が経費は下がると思えます。

浜風幼稚園の時もそうでしたが、浜風幼稚園は施設を取り壊して新しく建てるようにしました。というのも他市では幼稚園を認定こども園にする事もあります。実際に幼稚園を認定こども園にした経験がある法人等に聞くと、幼稚園だったところは3歳児、4歳児、5歳児が中心ですので使い勝手が悪いということが多々聞きました。

今回、認定こども園や民間誘致がありますが、今後10年のことだけを考えると経費としては改修した方が安く済みますが、長く子どもが過ごすことを考えると、経費はかかりますが、認定こども園として適した、小さい子に適した施設を踏まえた全体の建て直しをした方がいいのではないかと思います。

改修の選択肢がゼロでは無いという思いはありますが、子どものことを考えると新設計、民間を誘致するのであれば民間の保育理念が達成しやす

い動線を考えた施設にすることを第一の条件にしたいと思います。

(保護者) 長い目で考えているのであれば、岩園幼稚園は幼稚園として建て直しました。これをそもそも認定こども園として建て直していれば、定員充足率が統合しても50%にしか過ぎないことは無く、認定こども園として建てておれば待機児童の解消も見込めたのではないですか。そこに将来を見据えてしているのですか。岩園幼稚園の新築については疑問に思います。

宮川幼稚園は廃園になる予定です。これも平成27年度に耐震工事を大規模にしたばかりです。これも行き当たりばったりでないのかという印象を与えてしまいます。長く先を見据えたと言われてもすぐに信用できない部分があります。

(教育委員会岸田) 岩園幼稚園ですが、建て替えは平成25年当時から決まっていました。市として幼稚園として建て替えるという決定をしています。これは老朽化です。60年経っている中、幼稚園として子どもの安全性からも建て替える必要があるということで幼稚園として建て替えました。

認定こども園として建てればよかったのではないかということですが、芦屋市立認定こども園として判断したのは今回です。公立の認定こども園については浜風幼稚園の件をご存じだと思いますが、私立で認定こども園をするのであれば補助があるが、公立だと補助がほとんどないこともあり、浜風幼稚園の跡地は私立の認定こども園を建てることになりました。

そのような状態でしたので、公立の認定こども園は今回、幼稚園は8園から4園、保育所は6か所から2か所という大きな改革をするので、施設の運営面、財政的なことも改革することによって、その分を公立認定こども園にも振り替えられるということも判断の1つです。

岩園幼稚園を建て替えることを決定した段階では公立認定こども園の方針は芦屋市にはありませんでした。岩園幼稚園を更地にして私立の認定こども園を誘致するのか、市立幼稚園として建て替えるのか判断した時に、芦屋市は幼稚園として建て替えようと決定しました。

幼稚園の充足率が4割を切る状況にあるということで、昨年2月に学校教育審議会を立ち上げました。こちらは学識経験者、市民の方、自治会の方、幼稚園、保育所の方、合計10の方に議論いただいた結果、今の幼稚園のかたち、8園の状態は見直す必要があると結論が出ました。数としては各中学校圏域で1から2園程度に見直す必要があると答申をいただきましたので、幼稚園についてはこの見直し案で進めました。

(保護者) 宮川幼稚園も改修工事をしているにも関わらず廃園になります。その当時、耐震強度が無く、子どもの安全を守るために1億円をかけたのだからしかたがないと言われたらそれまでかもしれませんが、長い目で見ている

というわりには行きあたりばっかりだという印象は拭えません。

(教育委員会岸田) 確かに御指摘のとおり、宮川幼稚園でいうと耐震補強と同時にバリアフリー化の工事をして宮川小学校のプール棟からエレベータで宮川幼稚園の2階と繋げました。それはまだ完成して2, 3年です。

宮川幼稚園をその時になぜ工事したのかという指摘はごもつともです。

子育て未来応援プラン「あしや」や市長の施政方針や学校教育審議会の答申が平成27, 28年に出されたので、これを受けての見直しです。宮川幼稚園は2, 3年しかたっていない中、先見の明が無いと指摘を受ければ否めない面はあります。しかし、大きく見直したということです。

(保護者) 先生の体制が非常に気になります。今、公立保育所にいる先生が最終的には2か所の保育所と2か所の認定こども園に分けられるということになり、尚且つ公立の幼稚園の教諭も勤務されると思います。

子どもは何時までと区別され、先生は午前と午後に分けるということにはならないと思いますが、先生は両方の資格を持って子どもを見るということですか。

そうすると市立保育所は異動があると思いますので、岩園保育所も含めて、幼稚園出身の先生が異動対象で来られるのですか。

(事務局伊藤) 幼稚園の先生が保育所の勤務になるかと言われると、現時点ではその予定はありません。認定こども園の先生は幼稚園の先生と保育所の先生の両方の資格を持っている人しかできません。

(保護者) 4か所を回るとのことですか。

(事務局伊藤) 保育所の先生は、岩園保育所、緑保育所、精道認定こども園、西蔵認定こども園の4か所で、幼稚園の先生は4か所の幼稚園と2か所の認定こども園で異動することになります。

(保護者) 認定こども園の中だと先生が混じっているということですか。芦屋市は認定こども園の制度がスタートしたばかりだと思いますが、そこですでに様々な課題が上がっているのではないかと思います。市として指摘事項は把握されていますか。

(事務局伊藤) 認定こども園だからということでの固有の致命的な問題があるということとは聞いていません。

よく心配されるのは幼稚園の子は14時に帰り、保育所の子は順次帰りますが、遅くまでいる中、子どもに対して影響があるのではないかと指摘をよく伺います。

芦屋市の公立として認定こども園はまだしていませんが、他市では公立も私立もたくさん運営していますので、何園かの園長先生にお伺いすると、

そのようなことはまずないと伺っています。工夫があつての「ない。」だと思しますので、どのような工夫をしているのか必要な部分をお伺いしている中では、「特別なことをしなくても子どもに対して影響を与えることは無い。」と伺っています。

(保護者) そのこの不安感を持つ人は多いと思いますし、近隣市町村では無くても、東京ではトラブルがあると聞いています。

それを嫌がって市立の保育所に精道圏域から岩園保育所を希望するというのも、保育所が2か所しかないのでも、保育所の方がシステムとして安心する方や、私立は嫌だと思ふ方は集中すると思いますが、例えば希望の調整はどのようにお考えですか。

(事務局伊藤) 定員には枠がありますので、希望が集中するとどうしても今待機されているポイントと同じになりますから、入所が難しくなってくるかと思ひます。

認定こども園そのものがお子さんの保育時間の早い遅いで影響が無いということは先生方から伺っていますので、市内の認定こども園自体がまだ幼稚園型の愛光幼稚園だけが唯一ですので、実感としては言葉で説明してもということがあります。

感じられることもごもつともだと思ひますが、平成30年4月からは2か所できますので、そこも見えていただければ、こちらも十分説明をして、心配無いということを見ていただければ、岩園保育所や緑保育所に集中することが避けられるのではないかと思います。十分説明させていただきます。

(保護者) コミュニケーションが大切だと思いますので、ホームページでの情報公開なり、不安感など先取りして、これにはこのような対応・工夫をしますということを発信していただかないと、懸念されるのではないかと思います。

(保護者) 幼稚園の充足率がとても下がっていて、待機児童が増えているのに、保育所を2か所にして幼稚園を4か所にするのか分かりません。

市立の保育所がいいという人は結構聞いています。南の方に住む人ともお話ししたこともありますし、このあたりの人とも話した上での言葉ですが、市立の保育所が安心ということもあるのか希望されている人が多いので、幼稚園の充足率が低いのであれば幼稚園だけで統合して、認定こども園ができればいいのではないかと思います。

そうすれば保育所に入りたい人は保育所に入れますし、困っている人は一時的にでも認定こども園に入り、待機児童の解消になるのではないかと思います。

待機児童の人数ばかりを言っていますが、数だけ見るのではなく、本当に保育を必要とされている人の数を示して欲しいです。数だけだと、あわよくば入れたらいいなど出している人もいます。目先の情報ではなく、本当に保育をしてもらわないと仕事ができない、介護ができない人の数を出して、これからどうするか考えないと、少子高齢化なのにこんなに一度に統合し、保育所を2か所まで減らして、子育てする保護者は不安ではないかと思います。

バスで通われている人がいたくらい岩園保育所はいいという声が多いですが、それでも岩園保育所が遠いから精道保育所に行きたいという人もいますので、最低でも3つないと通いにくいのではないかと思います。

(事務局伊藤) 幼稚園に問題があるのに、何故保育所を民間移管や統合するのか、幼稚園を統合して、空いたところに誘致すればとのことで、それも1つの方法だと思います。今回このような計画ですが、空いた土地が出てきます。その部分は他市では待機児童が解消された後すぐに待機児童が増えることもありますので、そのようなことを踏まえながら、跡地については誘致ということも考えないといけないと思っています。

今回のあり方については幼稚園の充足率が下がっているということも解決しないといけないことですが、保育所でも待機児童の問題や今後公立施設を永続的に維持していき、公立をゼロにするとは思っていませんので、効率的なやり方も考えないといけないという大きな課題がある中、統合や民間移管に踏み切る必要がありました。幼稚園の充足率の低下も考えないといけない大きな問題ですが、幼稚園の問題は幼稚園だけで考えるのではなく、保育所も交えて全体として考え、このようにするのが良いと提示した内容です。充足率の問題は幼稚園だけなのでという指摘もごもっともですが、全市的な中で解決策を見出したいということでこのような計画になりました。

数についてですが、ニーズの度合いが高い低い様々ではないかということについては、今は勤務していませんが、今後の生活プランを考える中では働いていく必要があるので申し込んでいる場合もあると思います。そのような方といざ働いていて預け先も無く、介護をしないとけない状況等と比べると度合は低いかもしれませんが、その方の生活プランを考える中では必要度合はその家庭では高いと思います。

申込みされている以上、ニーズがあるから申込みされていると思いますので、出している人については極力保育所を利用できるようにしていきたいと思っています。

認定こども園がどのようなものか実際体感いただくには愛光幼稚園し

かありませんので、なかなか説明は難しいですが、認定こども園も幼稚園であり保育所でもありますので、保育所という形態は岩園保育所と緑保育所ですが、精道圏域では精道認定こども園と西蔵認定こども園を整備することで、そこも保育所ですので、今は言葉での説明しかありませんが、不安にならないよう進めていきたいと思います。

(保護者) 待機児童の解消に向けて認定こども園を作って一定程度解消するということは理解の範囲内ですが、打出保育所と大東保育所を公立でしているものを私立に変えることは経費削減の部分大きいと思います。

正直に申しまして、保育所や幼稚園の設備は重要ですが、ハード面よりもソフト面が重要だと考えています。

その中で公立から私立になることで保育士の給与が下がるのではないかと懸念しています。最近保育士の給与が安すぎると問題になっていることから、時代と逆行しているのではないかという印象です。どのようにお考えですか。

(事務局伊藤) 打出保育所と大東保育所の保育士の給与が下がるのではないかということですか。

(保護者) 一般的に、民間になれば、今雇われている保育士はそのまま公務員として勤めると思いますが、打出保育所に新しく私立の保育所が来たら民間が運営し、民間で雇われた保育士が勤めることになるので、給与水準は下がると思います。そのような時に一番保育所を支えるべきソフト面が低く抑えられるのではないのでしょうか。

保育士の給与が低いことが問題視される中、民間移管するということは徐々に公務員を減らして民間の保育所を増やすということでしょうから、全体として保育士の給与水準が下がるということが時代と逆行していると言いますか、問題になっている点ではないのでしょうか。

(事務局伊藤) 打出保育所と大東保育所で勤務している保育士は民間移管された後は岩園保育所など他で勤務しますので、その人の待遇面では変更ありません。確かに国全体で保育士の賃金水準を上げないといけないと言うことで、運営費の中で保育士の給与改善にしか使ってはいけないということも足されています。

平成29年度から、主任クラスについては4万円程度上げるような取組みも発表されていますので、打出保育所と大東保育所を民間移管することで保育士の給与水準を下げる方向になるのではないかということは、そこまではないかと思えます。保育士の給与が低いということは国を上げての指摘事項ですので、芦屋市だけの取組みは難しいところがありますが、国

の給与改善については実施していき、給与改善につながるように努力したいと思います。

(保 護 者) では、何故民間移管をするのですか。

(事務局伊藤) 経費削減は結果としてどうしてもついてきます。

平成29年度末に5人、平成30度末に10人、平成34年度末に10人の公立の保育士が退職します。公立保育所をそのまま維持するならば新規採用して継続するのですが、そこで民間移管するということは新規採用しないで民間移管するということです。その部分では経費削減に繋がることは間違いありません。

経費削減するということは子どもに関わるお金を少なくしたいのではなく、ハートフル福祉公社の跡地に民間誘致することや小規模保育事業所を誘致するなどおそらく待機児童の傾向は続くと思いますので、さらなる誘致も必要となりますので、ここで浮いたお金は必要な子どもの施策、待機児童の解消が中心になると思います。そちらに使っていきたいです。

打出保育所、大東保育所の保育士を採用して続けることも意義があると分かっていますが、その部分を民間移管し、運営については国・県・市で分割して運営費を負担するので、市の負担が低くなります。

その分を子育てに使っていききたいということでの経費削減です。それで大東保育所、打出保育所を民間移管にするという判断をしたという趣旨です。

(保 護 者) 民間移管する業者は決まっていますか。

(事務局伊藤) 資料2の打出保育所の欄に記載のあるとおり今の計画としましては、平成29年夏頃に公募して事業者を決めたいと思います。

(保 護 者) 今年の夏から公募をして決めていくということですか。

そうすると何年度にスタートありきですと選択が狭まると思いますので、民間の事業者が見つからなければこの計画が後ろ倒しや変更があるということですか。

(事務局伊藤) 極力無いようにしたいのですが、もし公募をしても事業者も応募が無いとか、応募があっても基準に届かないということが続けば期間がずれることがあるかもしれませんが、それが無いようにしていきたいです。

(保 護 者) 芦屋市で言うと、社会福祉法人夢工房の件があるかと思いますが、正直な話、あそこの親だったらとんでもないなと言いますか、せつないなと言いますか、すごく待機児童が多く、人気の保育園です。問題があっても不信感を持って辞められません。認可園の取消しありませんよね。非常にリスクがあります。芦屋市としても防ぎきれなかったし、そのような問題

を起こした事業者でも継続せざるを得ないです。

子どもを預けている以上、先生に意見も言えないし、関係性が悪くなるのを嫌がるので、そのことを思うと怖いだらうなと思います。

今回の問題と関係あるか分かりませんが、再発防止策と言いますか、実体験として怖い思いをしたにも関わらず、民間移管をするということで、防止策や施策を考えていますか。

(事務局伊藤) 社会福祉法人夢工房の件については、ご迷惑をかけて申し訳ございませんでした。社会福祉法人夢工房の件を受けて、不正なお金の使い方がありましたので、監査を担当する課長級の者を1人配置して、専任で取り組んでいます。事件があった後も市独自の監査をして内容を確認していますし、私立全体に対して確認監査を実施したいと思います。1年で全部できるか分かりませんので、時間はかかるかもしれませんが、しっかりと確認監査をしていきたいと思います。

巡回は前から行っていますが、保育士がしており、保育の現場で話をしながら行っています。お金だけではなく内容も一緒にする体制を取っています。

(保護者) 私立保育所に職員、保育士が定期的に巡回されるということですか。

(事務局伊藤) 今すでに行っています。

(保護者) 近隣の市町村が驚くような大きな改革だと思うが、成功事例や参考にした市町村はありますか。

(事務局伊藤) 今回は様々な要素、民間移管や民間誘致や統合があります。民間誘致は我々も以前から行っていますが民間移管や公立認定こども園の新設は阪神間で多々ありますので、その事例はヒヤリングしながら行っています。

今は枠組みですので、中身を検討する中では先進のところの詳細を聞いてまいります。

(教育委員会岸田) 幼稚園で言いますと、芦屋市の幼稚園を見直しますが、阪神間では芦屋市が一番遅いです。

(保護者) 統廃合についてですか。

(教育委員会岸田) どこの市も幼稚園の子が少なくなってきた思い切った見直しをしています。学校教育審議会でも、芦屋市の教育委員会は周りは舵を切っているのに何をしているのだ、という指摘も受けています。

(保護者) 芦屋市の政策が遅いということは印象としては無く、すごく大事なことを大事にしていると思います。

結局数字のことや政策のことはお任せしないと分からないのですが、大事なことは一緒だと思いますので、それを守ってくださって様々な知識を

集めた上でしてくれることであれば皆さん納得されると思います。説明の場も設けてくださった上で進めていることなので、信頼してできるようになっていくと思います。

心配だったのは、芦屋市としてどのように思われているのか。冊子や市長の意見があったことを知らなかったので拝見していないので分かりませんが、子育て推進課が保育所の管轄で教育委員会が幼稚園の管轄で、芦屋市の市長がいて、今回どのような視点で、どのような意見のまとまりでこうなったのか。どのようなことが主導になりこのようになったのか。根本的なことが踏まえられた上での政策であれば心配にならないと思いますが、そこはどうしても不安ということがあります。

(事務局伊藤) 根本の話だと思いますが、待機児童の解消や充足率の低下等の課題解消はもちろんあります。根底となりますと、市長からも発言した中で、「子どもの最善の利益につながる」ということが根底にあります。

その言葉を受けると打出保育所、大東保育所を民間移管するという話を聞くと逆行ではないかという意見も聞きます。確かに、民間移管することで、子どもの影響、保護者の影響、公立を選んで行ったのにと指摘を頂戴することはごもつとも、そのことについていかに影響を減らしていけるのかという取組みをする必要があります。

子どもの最善の利益ということで、民間移管だけを見ますと経費削減ですが、それにともない他の施策に有効的にお金を使いたい部分や、縮小化することで保育施設を今後も永続的に維持していくことがよりやりやすくなります。今の水準のままの支出をするよりも、永続性を確保できるということで、将来にわたり、芦屋市は子どもに対して責任を持ちたいと思います。

認定こども園を登場させましたのも、2つの施設を1つにする、3つの施設を1つにするなどで経費削減させることもありますが、幼稚園も保育所もそれぞれ同じ思いで子どもを育てていますが、長い歴史で培ってきたものを1つのものとして登場させることで、核として教育・保育水準の向上に努めたいですし、維持したいです。

確かに経費削減という面はありますし、その部分は否定できませんが、子どもに対して節約したいのではなく、他の部分に使いたい、将来に渡っても芦屋市として責任が果たせるように維持していけるように高めていきたい、ということが子どもの最善の利益を根底にしている理由です。

今回出させていただいた内容については、経費削減や子どもの影響の指摘を受けることはごもつともですが、それに関してはできる限りのことをさせていただきながら、子どもの最善の利益を行政として追及したい、将

来に渡って担保したいことが一番の根底ですので、その部分は説明させていただきながら了承していただけるように繰り返し説明会を行いたいと思います。

(保 護 者) 今の答えを聞いて、具体的に子どもの利益はどのようなものかとお考えですか。

(事務局伊藤) まずは直近で見えるものでは、待機児童の解消に向けた一定数の枠組みができることや、充足率の低下が今より改善が見込まれることとか3歳からの教育ニーズに答えられるような利益も子どもの最善の利益の1つだと思います。それに加えて、今後将来にわたる部分でも、保育所、幼稚園、認定こども園を永続的に維持していくことができるのではないかと思います。

認定こども園を登場させることで教育・保育の水準をさらに高めるための努力をさせていただき施設を新たに登場させることができます。

そのような部分が子どもの最善の利益、直近、将来の部分に合わせて子どもの最善の利益だと考えています。

(保 護 者) 具体的な子どもの内面にとっての利益はありませんか。大人から見る利益と言いますか、子どもには分からないことだと思います。

(教育委員会岸田) 子どもの内面で言いますと、なぜ幼稚園や保育所があるかと言いますと、子どもの生きる力の為です。これはどの形であっても子どもの生きる力の基礎を培っていくことは変わりません。そもそもの存在理由ですから、どのような形であれ、子どもが今後将来にわたって生きる為の力の基礎を培うことが芦屋市として基本の基本として押さえていくつもりです。

(事務局三井) 合わせまして、保育所を望む人もいれば幼稚園を望む人がいて立場が様々な人がいます。子どもは最後は小学校、多くの方は同じ小学校に行きます。子どもには自分で考える力、人を大事に思う、自分を大事に思える力をつけることを、公立も私立もして欲しいということで所長会や、巡回を行っています。そういった中で芦屋市の考え方を示しています。公募をするときにも就学前カリキュラムという形で芦屋市の考え方を示しています。私立に任したから任せ切りということはありません。

将来に渡って続ける中で、少子高齢化になってくる中で、保育所を含めた民生費は増えてきています。高度成長期に施設を作っていますので、その維持費、管理費もたくさんあります。そうすると今の水準を維持するためにはどうなのかと考えると打出保育所、大東保育所の職員採用という方法もありますが、そこは皆さんに御理解をいただきたいと思います。では、何を守っていくのかと言いますと、保育所で言いますと配置基準です。配

置基準については、国からは、待機児童が多い市については、国よりも手厚い配置基準にしている市町村は一時的にでもいいから、辞めて、子どもを入れなさいということも来ていますが、私たちはやりたくありません。市によっては、私立の認可基準は国の基準というところもあります。

芦屋市については、私立も芦屋市の配置基準を守って欲しいということをお願いをして、守っていただいています。

守っていききたいことはたくさんありますが、全てを守っていくことは将来的にはどうなのかと考えた時に、まず待機児童の目途をつけ、幼稚園の目途をつけ、朝日ヶ丘幼稚園で言いますと、今後、施設を作るということは、長い間使うこととなります。また、駅から遠いこともあります。山手圏域は待機児童が解消できていないですが、現在大きな土地の確保ができません。朝日ヶ丘幼稚園ですればいいのかとはなりますと、一度建てるとなかなかやめることはできません。今後の課題として残しつつ検証しながらしていくことは考えています。まずはこの形で1つの仕組みを作りたいと思います。しかし、待機児童は今後も課題として残ってくる可能性があります。

(保護者) 幼稚園と保育所を統合して認定こども園にするということは、幼稚園の良い面と保育所の良い面を両方いいとこ取りできるということだと思いますので、認定こども園については賛成です。

しかし、公立認定こども園として2園が開園する中で定員が200人と300人になっています。最大300人となれば、全国的にも大規模になるかと思いますが、その中で定員が300人になると保育教諭の負担が大きくなると思いますが、その点についてどのように考えていますか。

西蔵町で300人になった場合、1号と2号と何人ずつ見込まれていますか。

(事務局伊藤) 勤務する保育教諭の負担についてですが、認定こども園は保育所と同じ配置基準を適用しようと思っています。5歳児であれば国基準は30対1ですが、芦屋市は保育所では20対1という基準を持っていますので、その基準も認定こども園では当てはめようと思っていますので、公立認定こども園になったので、先生1人が見る子どもの割合が増えることはありません。そういう部分での負担増は無いとは思っていますが、100人のところが300人になりますので、1人ひとりの子どもの顔を覚えるまでに時間がかかる等そのようなところでの工夫が必要かもしれませんが、極端に保育教諭の負担になるような割合を変えることはありません。その部分での負担はないと思っています。

(教育委員会岸田) 芦屋市の幼稚園は昭和55年で1900人の子どもがいて、各園270人、280人の子どもがいました。その幼稚園で4歳児は30対1、5歳児は35対1という運営をしていました。

今回は1号、2号、3号が合体するので、そこは初チャレンジになりますが、人数規模で言うと、300人弱でしている経過があります。

(事務局伊藤) 1号、2号の割合ですが、まだ定員が決まっています。

西蔵についても、精道は幼稚園と保育所のどちらでするのかにより面積も異なりますので、定員のきっちりとしたところはなかなか確定することができていません。

大まかなイメージは、待機児童の解消の為に公立の保育所や公立の施設を作って定数枠を増やすという考え方は今までも基本的にはしていません。今回の部分でもあまり大きな分ではする予定はありませんので、西蔵は保育所と言えば新浜保育所が移るので、西蔵の保育所の定員は新浜保育所の100人を基としたものになりますので、いきなり200人にすることは考えていません。

時間になりましたので、終わりたいと思います。本日はありがとうございました。